



東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

TO **H**OKU **M**EDICAL **M**EGABANK **O**RGANIZATION

www.megabank.tohoku.ac.jp

発行 | 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

〒980-8573 仙台市青葉区星陵町2-1 TEL : 022-717-8078 (代表)

*本誌の収録内容の無断転写、複写、引用等を禁じます。

PURPOSE

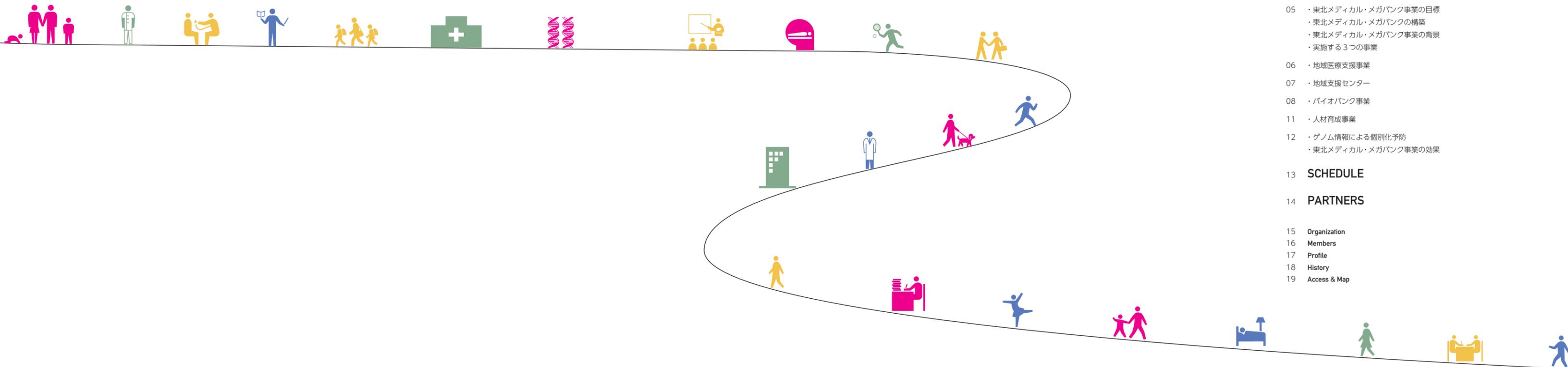
最先端医療システムを構築し、

被災地医療の復興を成し遂げる東北メディカル・メガバンク事業は、

東北復興と先端研究の融合を目指します。

住民の方々の長期的な健康向上と、医療産業の振興を担い、

個別化医療・予防の実現を使命とします。



CONTENTS

02 未来型地域医療モデル体制の確立を目指して
東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
機構長 山本 雅之

MISSION

- 03 ・理念
- ・事業の概要
- ・東北で本事業を行うことの重要性
- ・東北メディカル・メガバンク機構の略称
- ・ロゴマークについて

PROJECT

- 04 ・東北メディカル・メガバンク機構が目指す未来型医療
- 05 ・東北メディカル・メガバンク事業の目標
- ・東北メディカル・メガバンクの構築
- ・東北メディカル・メガバンク事業の背景
- ・実施する3つの事業
- 06 ・地域医療支援事業
- 07 ・地域支援センター
- 08 ・バイオバンク事業
- 11 ・人材育成事業
- 12 ・ゲノム情報による個別化予防
- ・東北メディカル・メガバンク事業の効果

SCHEDULE

PARTNERS

- 15 Organization
- 16 Members
- 17 Profile
- 18 History
- 19 Access & Map

未来型地域医療モデル体制の確立を目指して

2011年3月11日の東日本大震災は、東北地方太平洋沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらしました。この災害から立ち直り、創造的な復興を成し遂げるために、東北メディカル・メガバンク事業を提案しました。

私たちが目指すのは、未来型地域医療モデル体制の確立です。以前から医療過疎などが叫ばれてきた東北地方には、施設を建て直すだけでなく、復興・再生の「核」となるものが重要です。

東北メディカル・メガバンク事業は、地域医療の支援を行うと共に、地域医療情報連携基盤の整備と大規模なコホート調査をもとにしたバイオバンクの構築、そしてそのための高度専門人材の育成を行います。事業によって、東北地方は日本のライフイノベーションの新規中心拠点となって、単なる復旧に留まらない創造的な発展を成し遂げていけると考えております。

事業の遂行にあたっては、東北地方の住民の皆様はじめ、全国の医療・学術関係者など多くの方々のご協力を仰ぎ、世界に向けて発信できる拠点を作り上げていきたいと存じます。

どうかよろしく御支援をお願い申し上げます。

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
機構長 山本 雅之



MISSION

理 念

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構は、未来型医療を築いて震災復興に取り組むことを目的に設置されました。機構は、東日本大震災の被災地の地域医療再建と健康支援に取り組みながら、医療情報とゲノム情報を複合させたバイオバンクを構築します。そして、構築するバイオバンクの情報とその解析結果に基づく新しい医療の創出を通じて、被災した東北地区への医療人の求心力向上、産学連携の促進、関連分野の雇用創出、そして被災地区の医療復興を成し遂げたいと考えています。

事業の概要

東北メディカル・メガバンク機構が取り組む主な事業は、医療情報とゲノム情報とを組み合わせたバイオバンクの構築、地域医療情報連携基盤の構築、高度専門人材の育成の3つに分けられ、およそ10年に及ぶ事業を計画しています。

構築されたバイオバンクから遺伝情報の解析を進め、ゲノム情報に基づいた未来型医療を築きます。

事業の推進にあたって、まず、東日本大震災により大きな被害を受けた地域における住民の長期健康調査とその結果の回付、地域への医師派遣システムの確立に取り組めます。地域医療情報連携基盤の構築のために、医療情報のICT化を推進し、二度と診療情報を失うことなく、地域で共通した医療記録にアクセスできる仕組みづくりを行っていきます。

事業の結果として、東北地方の被災地で活動する医療人材の確保と循環的供給、産学連携の促進、関連分野の雇用創出、そして被災地区の医療復興を成し遂げることができると考えています。

東北で本事業を行うことの重要性

東北メディカル・メガバンク事業は、復興プロジェクトです。数年前から必要性を指摘されているゲノムバンク事業を、東北の地で、医療情報と組み合わせ複合的なバイオバンクとして構築することで、被災地の医療の復旧に貢献し、関連する産業を興し、地域全体の復興のための中核となろうとしています。

もとより東北大学医学部は、東北地方、特に宮城県の医療人材の供給の中心となってきました。東北大学は最先端研究に力を入れてきましたが、同じ県内に医学部を持つ大学がほかにないこともあり、必然的に、この地方の地域医療を担い続けています。本事業では、直接的に地域医療の再建に取り組むと共に、長期的視野に立って先端的な医学拠点を形成することで、更にこの地方の医療を底上げしたいと考えています。

東北メディカル・メガバンク機構の略称

Tohoku Medical Megabank Organization

ToMMo - とも -

東北メディカル・メガバンク機構は、地域とともに歩みます。

ロゴマークについて

地域に根をおろし、しっかりとしたものを構築していくイメージを機構名の頭文字で表現しました。



PROJECT

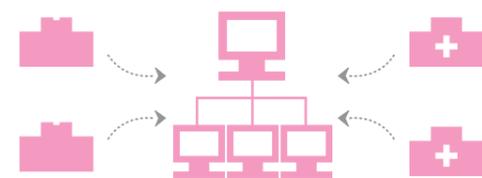
未来型医療モデルの構築を目指して、地域医療支援、バイオバンク構築、人材育成に取り組みます。

東北メディカル・メガバンク機構が目指す未来型医療

- 医療データがICT化され、二度と災害で失われない
- データはネットワークで結ばれ、地域内どこでも同じ医療
- ICT化を利用した、遠隔地の専門家も参加したチーム医療
- 診療も投薬も、一人ひとりの遺伝情報をもとにした、オーダーメイドのもの
- 一人ひとりの遺伝情報が、生活習慣の改善など、健康に活かされる

医療情報 ICT化

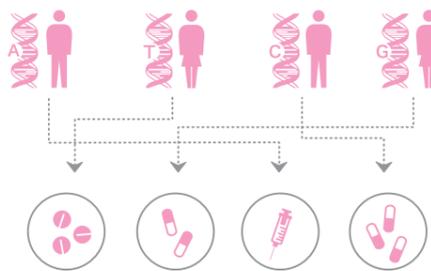
診療データなどは電子化されて、地域で共有されます。



* ICT化：情報通信技術によって電子データでやり取りや保存が可能になること

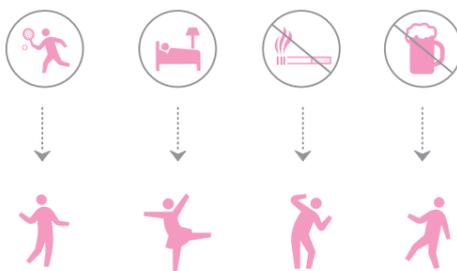
個別化医療

一人ひとりの遺伝情報に合わせて、同じ病気でも違う投薬や治療方法がとられます。



個別化予防

個人の遺伝情報を把握することで、一人ひとりに最適な生活習慣の改善方法などが明らかとなります。



東北メディカル・メガバンク事業の目標

01. 被災地住民の健康向上
02. 医療人の被災地への求心力向上
03. 医療系高度専門職業人の養成
04. 産学連携による開発研究推進
05. 関連分野の雇用創出

東北メディカル・メガバンク事業の背景

東日本大震災に対する東北大学大学院医学系研究科の取り組み

- 総合地域医療研修センターの設置
- 医学部医学科の時限的定員増
120名（震災前）→ 135名（平成25年度）
- 地域保健支援センターの設置
- 災害科学国際研究所の設置への協力

東北メディカル・メガバンク構想の提案

医療復興のための問題点

- 震災以前からの課題
 - ・地域、僻地医療を担う医師の不足
 - ・医師にとってのキャリアパス上の問題
- 壊滅的な被害と医師確保
 - ・宮城県内6公的病院に壊滅的被害
 - ・“ハードウェア”の復旧だけでなく、働く医師、医療スタッフの確保

東北メディカル・メガバンク事業で、働く医師にとって魅力を創出

東北メディカル・メガバンクの構築

今の東北地方にしかできない世界最先端の試み

新しいタイプの複合バイオバンクを構築して
医療イノベーションの基盤とし、さらに全世界に情報を発信

実施する3つの事業

バイオバンク事業



地域医療支援事業



人材育成事業

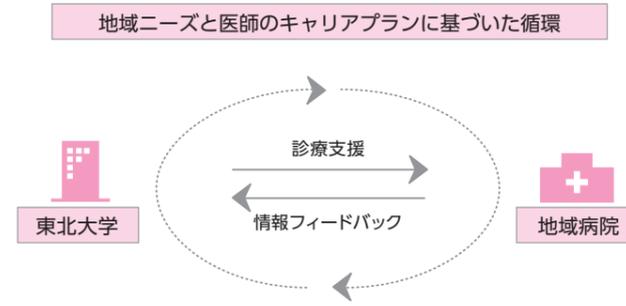


- 東北メディカル・メガバンクの構築
- 被災地域の医療復興と連動
- 医療系高度専門職業人養成ともリンク
- 最先端研究の復興と被災地域の雇用創出への貢献

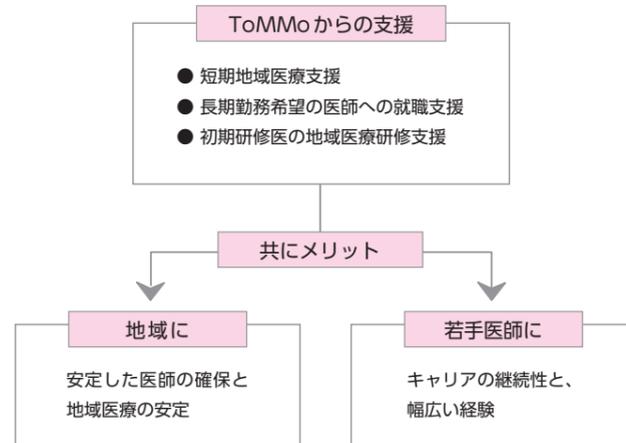
地域医療支援事業

循環型医師支援システムの提案

東北メディカル・メガバンク機構は、循環型の医師支援体制を提案します。



チームで交代しながら地域に対応・医師は先進医療も研鑽



ToMMoクリニカル・フェロー

循環型医師支援システムを支える医師に、東北メディカル・メガバンク機構は、ToMMo クリニカル・フェローという称号を付与しています。被災地で地域医療を行う時期と大学で医療技能の研修や研究にいそむ時期を順番に経験し、キャリア形成していきます。

● ToMMoクリニカル・フェロー 循環モデル

	4ヶ月	4ヶ月	4ヶ月
医師A	地域医療機関医師 ToMMo非常勤講師	ToMMo 教員	ToMMo 教員
医師B	ToMMo 教員	地域医療機関医師 ToMMo非常勤講師	ToMMo 教員
医師C	ToMMo 教員	ToMMo 教員	地域医療機関医師 ToMMo非常勤講師

ToMMoクリニカル・フェローとして、地域医療と先進医療の発展に寄与



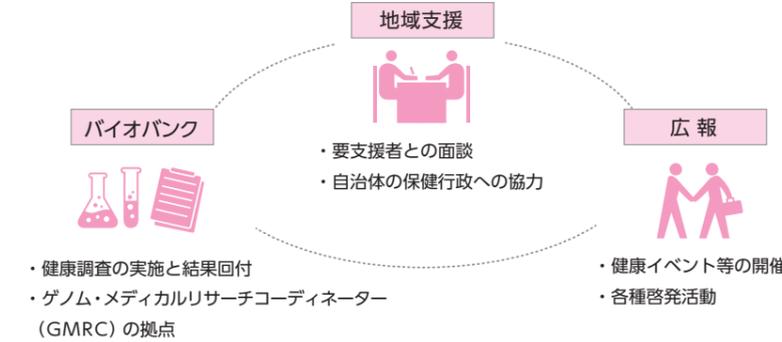
● ToMMoクリニカル・フェローが着任している主な病院

- ・公立南三陸診療所
- ・公立志津川病院
- ・女川町地域医療センター
- ・気仙沼市立本吉病院

地域支援センター

地域支援センター

県内各地で行われる長期健康調査や、調査に参加し要支援とされた方々への支援、地域の人々との交流のための拠点として、東北メディカル・メガバンク機構は地域支援センターを設けています。



地域支援センター設置場所

地域支援センターは、自治体などの協力を得て、太平洋沿岸部を中心に県内各所に設置されています。



- ① 地域支援気仙沼センター
- ② 地域支援大崎センター
- ③ 地域支援石巻センター
- ④ 地域支援多賀城センター
- ⑤ 地域支援仙台センター
- ⑤ 地域支援仙台センター 南吉成分室
- ⑥ 地域支援岩沼センター
- ⑦ 地域支援白石センター

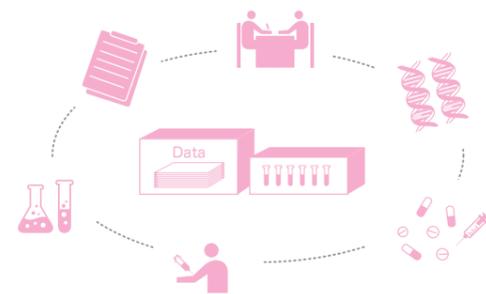
地域住民と自治体

事業によって得られる地域の健康に関するデータは、自治体などに提供され保健行政に活かされます。また、参加した個人が自らの健康づくりに役立てやすいようなイベントなどでの情報提供も行っていきます。



バイオバンク事業

東北メディカル・メガバンク事業におけるバイオバンク事業とは、地域の方々を対象とした長期にわたる健康調査事業と、その事業にあたってお預かりした生体試料と医療情報等を統合したバイオバンクを構築する事業、更にそのバイオバンクを運用する事業、そして、バイオバンクに集積した試料・情報を高度な技術で解析する事業までを含みます。これらを東北の地で行うことにより、東北を未来型医療と最先端研究の拠点とし、復興に貢献します。



*バイオバンク：多くの人々の生体試料・生体情報を保管して研究に供する仕組み

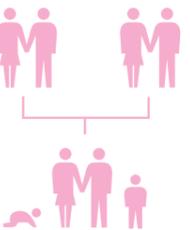
各種コホートの形成

住民の方々にご協力頂き、長期にわたって健康情報を追跡します。追跡の対象となる多くの人の集団をコホートと呼びますが、東北メディカル・メガバンク事業では、総計 15 万人にのぼる方々を対象としてコホートを形成し、同意を取得した上で遺伝情報をお預かりし長期にわたって健康調査を行います。

東北メディカル・メガバンク事業が行うコホート事業は、三世代コホート（7万人）と地域住民コホート（8万人）の二つです。また、三世代コホートと共に、地域子ども健康調査として、小中学生を対象とした健康調査事業も行います。

三世代コホート

宮城県全域と岩手県の一部で分娩施設における妊婦の方へのお声掛けから、親世代・子世代を含む三世代を対象に実施しています。



● 地域子ども長期健康調査

宮城県内の小中学校でのアンケート調査をもとに、震災後の子どもたちの健康の実態を把握し、適切な支援につなげていきます。
*三世代コホートの一環として実施

地域住民コホート

宮城県・岩手県在住の 20 歳以上の男女を対象に実施しています。



三世代コホート	
地域	宮城県全域および岩手県の一部自治体
人数	約 7 万人
対象	対象地域に住民票があり、対象地域でお産を行う予定の妊婦の方々およびそのご親族
リクルート方法	・対象地域内の分娩施設でのお願い ・機構が設ける地域支援センターへのご来所（ご親族）
ご協力内容	調査票、遺伝情報を含む各種生体試料、追跡調査へのご協力

● 地域子ども長期健康調査

地域	宮城県内の大部分の自治体 (平成 24 年度：岩沼市・亶理町・山元町、平成 25 年度：県南部全域)
人数	約 1 万 3 千人 (平成 25 年度) を対象にアンケート配布
対象	対象地域内の小中学校に通う児童・生徒
リクルート方法	小中学校でのアンケートの配布 (回収は郵送)
ご協力内容	調査票、希望される場合には追跡調査

地域住民コホート	
地域	宮城県全域および岩手県の太平洋沿岸部自治体を中心とした地域
人数	約 8 万人 (宮城県 5 万人以上、岩手県 3 万人程度)
対象	20 歳以上男女
リクルート方法	・対象地域自治体での特定健康診査会場でのお願い ・機構が設ける地域支援センターへのご来所
ご協力内容	調査票、遺伝情報を含む各種生体試料、追跡調査へのご協力

コホート調査の結果と地域

地域住民コホート・三世代コホートの統計結果をもとにした地域の保健医療行政への反映

地域住民コホート・三世代コホートの健康調査結果の直接回付による住民の方々の健康意識の向上

地域子ども長期健康調査のアンケート結果をもとにした、要支援児童・生徒への面談等を通じた支援事業の実施

など

各地で行われているコホート事業

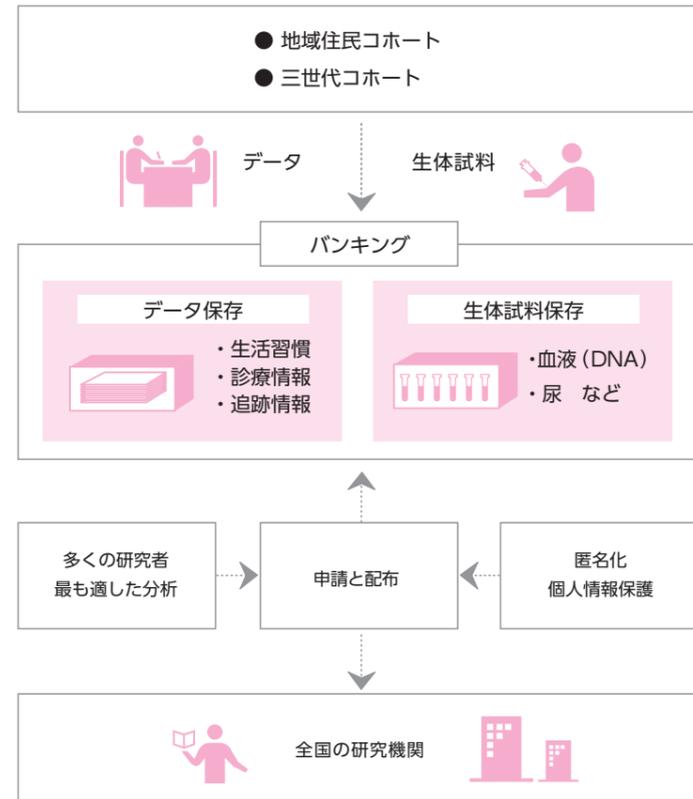
日本では、地域住民対象のコホートは、ながはま 0 次予防コホート（京都大学など）、久山町研究（九州大学）、J-MICC Study（名古屋大学・愛知県がんセンターなど）、JPHC Study（国立がん研究センター）、山形分子疫学研究（山形大学）など、患者を対象としたコホートでは、オーダーメイド医療実現化プロジェクト（理化学研究所・東京大学など）、などが知られています。また、海外でも、60 年以上続くアメリカのフラミンガム研究や、三世代コホートの先行例であるオランダの Generation R など、多くの先進的事例が知られています。



バイオバンク事業

バイオバンクの構築

コホート事業を通じて頂いたサンプルは、東北大学で厳重に保管された上で、多くの研究者によって解析されます。

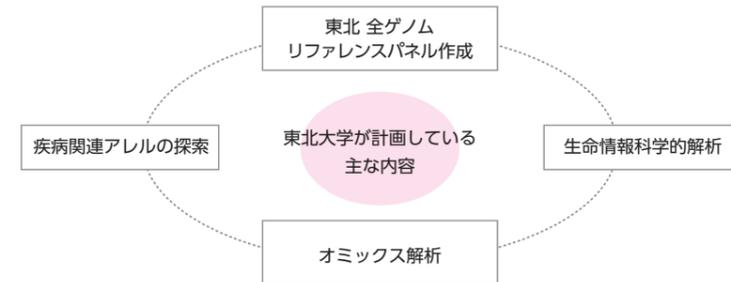


〈参考〉海外のバイオバンク (ゲノム情報含む)

【英国】UK Biobank / 50万人 【中国】KSDSC / 50万人以上 【EU】EPIC / 50万人規模 など

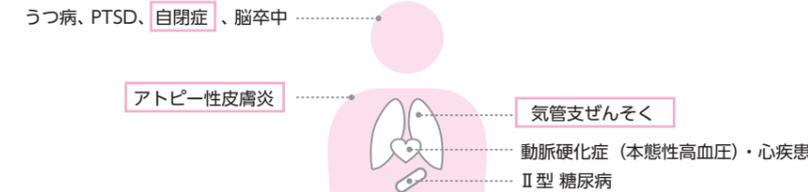
ゲノム解析

バイオバンクに蓄積されたサンプルは最先端の研究に提供され、さまざまな解析が行われます。結果は、未来の医療の構築に役立てられます。東北大学では、特に東北地方に未来型医療をいち早く築き、震災復興に貢献するような解析を行うことを計画しています。特に、バイオバンクの中の一部のサンプルは、全ゲノム解析されます。東北メディカル・メガバンク事業で構築されるバイオバンクは、全ゲノム情報などの解析データを付したサンプルを一定数以上保管する日本で初めてのものになる見込みです。



〈参考〉東北 全ゲノムリファレンスパネル：宮城・岩手の1000人の方々の全ゲノム情報をもとに、標準的なゲノム配列を決定した。これまで、欧米で決められたゲノム情報を標準としてきたのに対して、はじめてアジア人で標準的な配列を示すもの。

主な標的疾患



このものの病氣 (三世代コホートの対象)：悪性新生物や緑内障など他の疾病も、コホートに表れた場合 対象とする。

人材育成事業

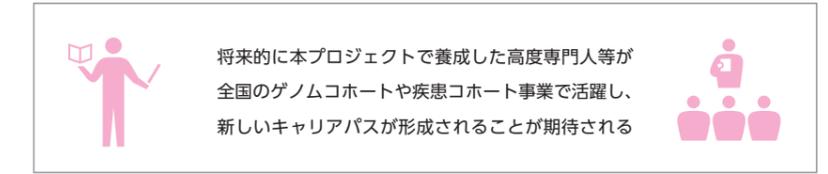
東北メディカル・メガバンク事業では、本事業を通じて医療系の知識・技術を身につけ、地域の保健・医療を支え推進する方たちを多く養成いたします。今後ひとりひとりの体質・生活習慣にあわせた医療が展開されるようになると考えられています。そのような医療を実現するために、必要となる多くの新しい医療系専門人材養成の場を提供します。

- 高度臨床研究支援者
臨床研究の計画から実行までを支えます。
- 遺伝カウンセラー
遺伝情報を患者さんなどに伝え共に考える役割を担います。
- バイオインフォマティシャン・バイオインフォマティクス科学者
生命科学の膨大な情報を情報科学的に扱う専門家です。
- サイエンスコミュニケーター
科学について社会と双方向にコミュニケーションする役割です。
- データマネージャー
バイオバンクに保管するデータの登録・管理を担います。
- ゲノム・メディカルリサーチコーディネーター (GMRC)
ゲノム研究において、研究協力者にきちんと説明し同意を得る役割を担います。

*東北メディカル・メガバンク機構では、平成24年から独自のカリキュラムによる養成コースを開設し、ToMMo ゲノム・メディカルリサーチコーディネーターを認定しています。

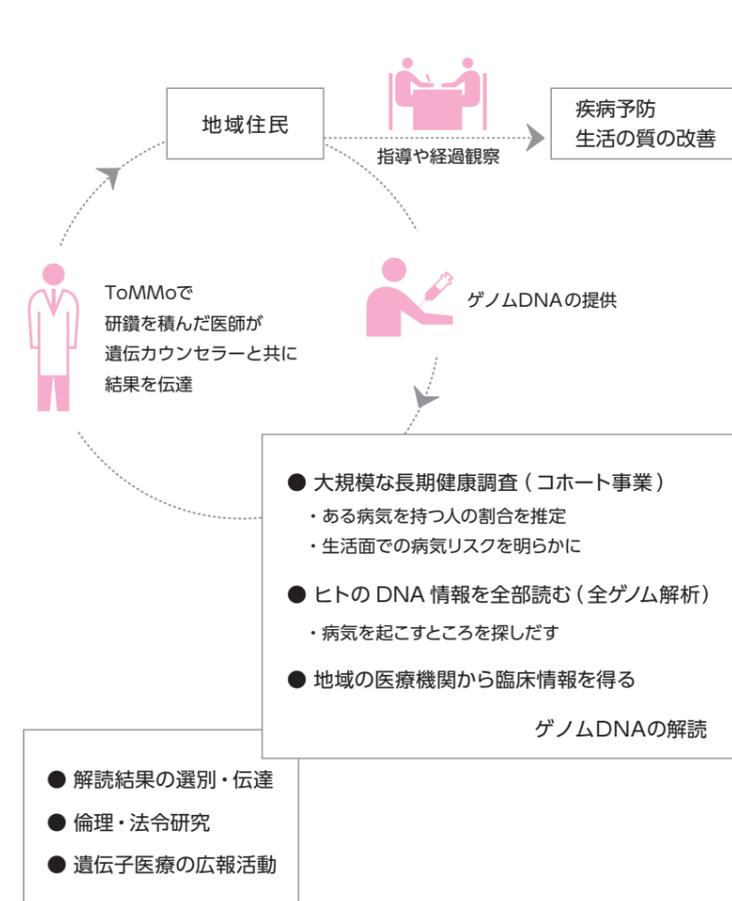


高度専門人育成計画



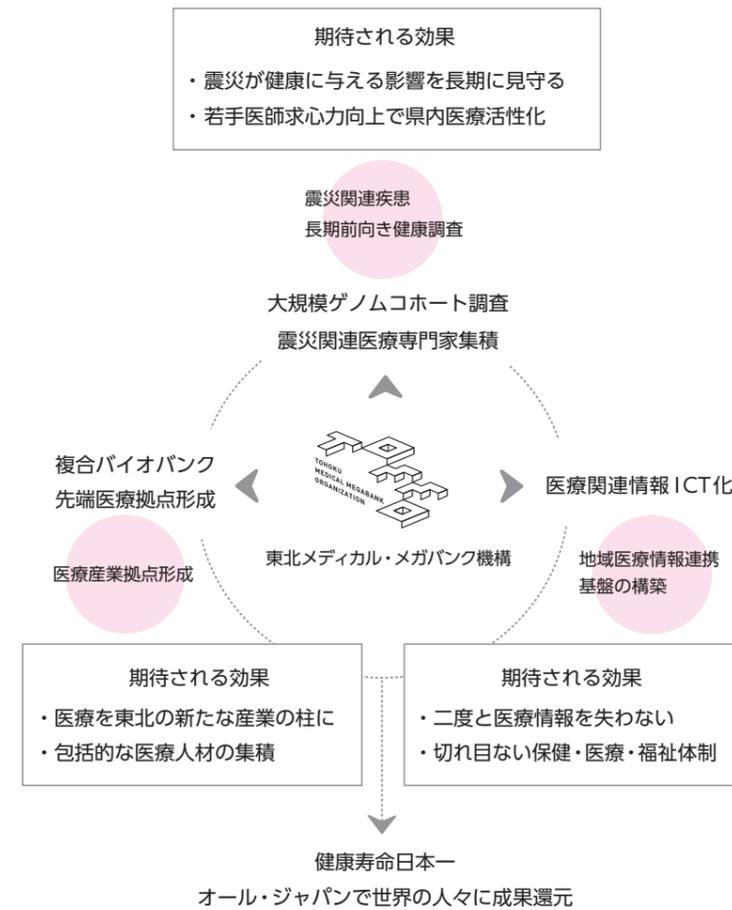
ゲノム情報による個別化予防

事業が目指す未来型医療の中心は、個人のゲノム情報に基づく医療、そして予防が提供できるようになることです。個別化予防の実現に必要な仕組みや人材の養成まで含めて、東北メディカル・メガバンク事業は取り組みます。



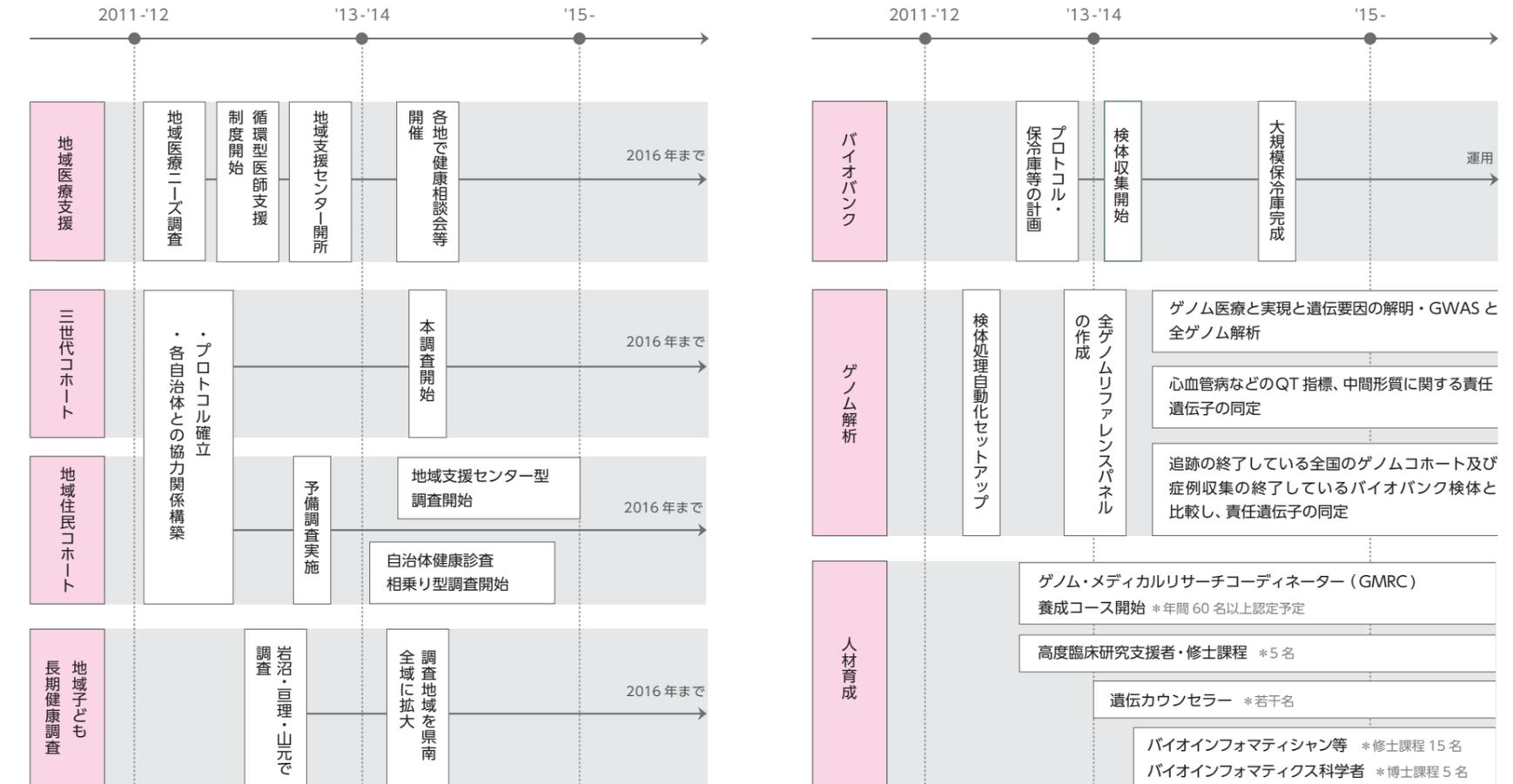
事業の効果

東北メディカル・メガバンク事業は未来型医療の構築を目指していますが、事業の過程で様々な効果を生み出し、事業を実施する東北に健康長寿をもたらすことを願っています。



SCHEDULE

地域医療支援の事業は直ちに開始し、各種コホート事業は丹念な準備と他機関との連携体制を構築しながら開始しています。



PARTNERS

他の大学・研究機関等と連携することで、大きな事業を効率よく進め、また効果を最大化します。

協力組織

岩手医科大学

東北メディカル・メガバンク事業は、推進本部が文部科学省に設けられ、そのもとで、東北大学と岩手医科大学が事業を進めています。特にコホート調査は、宮城県と岩手県で実施されますが、東北大学が宮城県内の事業を進めるのに対して、岩手県における事業は岩手医科大学が主に担います。両大学は、調査のプロトコルなどを共通のものにするために緊密な協力関係を築いてきましたが、長期にわたるバイオバンクの運用などのために、2013年5月に連携協力協定を締結し、事業に関する協議会を設置するなど、関係をより強固なものにしています。



いわて東北メディカル・メガバンク機構

宮城県内自治体

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構による宮城県内での事業実施に際しては、県内の自治体との密接な協力関係の構築が欠かせません。2012年9月に宮城県の村井 嘉浩知事と東北大学の里見進総長との間で協力協定を締結したのを皮切りに、県内の市町村それぞれと東北大学東北メディカル・メガバンク機構との間で協力協定の締結を順次進めています。

全国の学術機関

東北メディカル・メガバンク事業は、日本有数の規模のコホート且つ大規模な解析事業であり、計画を成功させるべく日本の英知が結集されています。2012年4月から文部科学省に設けられた計画検討会には、日本全国の学術機関から我が国を代表する研究者が集結して、2か月間で5度を数える会議が開催され、議論が行われました。そこで練り上げられた東北メディカル・メガバンク全体計画のもとに、本事業は進められています。また各地で先行して進められているコホート事業等とは、ベースライン調査の調査票項目の共通化など、連携による成果の最大化が図られています。

東北大学内

新設・時限の部局として設立された東北メディカル・メガバンク機構は学内の多数の部局と協力関係を築いているのは言うまでもありません。特に、医学系研究科・大学病院・災害科学国際研究所とは密接な協力関係を築いています。また、加齢医学研究所、情報科学研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科などとも連携が進められています。



TOHOKU UNIVERSITY



Organization





Members



山本 雅之

東北メディカル・メガバンク機構 機構長



八重樫 伸生

東北メディカル・メガバンク機構 副機構長



呉 繁夫

東北メディカル・メガバンク機構 副機構長

部門・部門長

地域医療支援部門	清元 秀泰
予防医学・疫学部門	辻 一郎
バイオバンク部門	峯岸 直子
ゲノム解析部門	山本 雅之
医療情報ICT部門	富永 悌二
人材育成部門	鈴木 洋一
広報・企画部門	大隅 典子
事務部門	高橋 秀市

地域支援センター・センター長

地域支援気仙沼センター	清元 秀泰
地域支援大崎センター	栗山 進一
地域支援石巻センター	菅原 準一
地域支援多賀城センター	寶澤 篤
地域支援仙台センター	布施 昇男
地域支援岩沼センター	菊谷 昌浩
地域支援白石センター	鈴木 洋一

室・室長

企画室	新井 知彦
広報戦略室	長神 風二
人材育成室	鈴木 洋一
知財戦略室	大津 浩
三世代コホート室	栗山 進一
地域住民コホート室	寶澤 篤
地域支援センター調整室	辻 一郎
コホート情報管理室	高井 貴子
地域医療支援室	清元 秀泰
バイオバンク室	峯岸 直子
試料・情報分譲室	鈴木 吉也
シークエンス解析室	安田 純
インシリコ解析室	木下 賢吾
統合データベース室	中谷 純
オミックスFS室	田邊 修
リスク統計解析室	田宮 元
メンタルヘルスケア推進室	富田 博秋



Profile

■ 山本 雅之

東北メディカル・メガバンク機構 機構長
東北メディカル・メガバンク機構 ゲノム解析部門 医化学分野 教授。地域医療支援室長、地域支援気仙沼センター長。
医学系研究科医化学分野 教授。

■ 八重樫 伸生

東北メディカル・メガバンク機構 副機構長
東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門 周産期医学分野 教授。医学系研究科婦人科学分野・周産期医学分野 教授。

■ 呉 繁夫

東北メディカル・メガバンク機構 副機構長
東北メディカル・メガバンク機構 ゲノム解析部門 小児病態学分野 教授。医学系研究科小児病態学分野 教授。

■ 清元 秀泰

地域医療支援部門長
東北メディカル・メガバンク機構 統合遠隔腎臓学分野 教授。地域医療支援室長、地域支援気仙沼センター長。

■ 辻 一郎

予防医学・疫学部門長
東北メディカル・メガバンク機構 公衆衛生学分野 教授。医学系研究科公衆衛生学分野 教授、地域保健支援センター長。地域支援センター調整室長。

■ 峯岸 直子

バイオバンク部門長
東北メディカル・メガバンク機構 バイオバンク生命科学分野 教授。

■ 富永 悌二

医療情報ICT部門長
東北メディカル・メガバンク機構 神経科学分野 教授。医学系研究科神経科学分野 教授。

■ 鈴木 洋一

人材育成部門長
東北メディカル・メガバンク機構 遺伝疫学研究支援分野 教授。地域支援白石センター長。

■ 大隅 典子

広報・企画部門長
東北メディカル・メガバンク機構 広報渉外・企画分野 教授。医学系研究科発生発達神経科学分野 教授。

■ 高橋 秀市

事務部門事務総括
医学系研究科・医学部事務長、東北大学本部事務機構総務部長等を歴任して、2012年4月に着任。

■ 新井 知彦

企画室長
東北メディカル・メガバンク機構 広報渉外・企画分野 教授。

■ 長神 風二

広報戦略室長
東北メディカル・メガバンク機構 広報渉外・企画分野 特任教授。

■ 大津 浩

知財戦略室長
東北メディカル・メガバンク機構 産学官民リエゾン推進分野 教授。工学研究科応用量子工学研究分野 教授。

■ 栗山 進一

三世代コホート室長
東北メディカル・メガバンク機構 分子疫学分野 教授。災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野 教授。三世代コホート室長、地域支援大崎センター長。

■ 寶澤 篤

地域住民コホート室長
東北メディカル・メガバンク機構 個別化予防・疫学分野 教授。地域支援多賀城センター長。

■ 高井 貴子

コホート情報管理室長
東北メディカル・メガバンク機構 バイオクリニカル情報学分野 准教授。

■ 鈴木 吉也

試料・情報分譲室長
東北メディカル・メガバンク機構 広報渉外・企画分野 准教授。

■ 安田 純

シークエンス解析室長
東北メディカル・メガバンク機構 分子ネットワーク解析分野 教授。

■ 長崎 正朗

インシリコ解析室長
東北メディカル・メガバンク機構 バイオメディカル情報解析分野 教授。

■ 中谷 純

統合データベース室長
東北メディカル・メガバンク機構 バイオクリニカル情報学分野 教授。医学系研究科医学情報学分野 教授。

■ 田邊 修

オミックスFS室長
東北メディカル・メガバンク機構 ゲノム多型機能解析分野 教授。

■ 田宮 元

リスク統計解析室長
東北メディカル・メガバンク機構 ゲノム遺伝統計学分野 教授。

■ 富田 博秋

メンタルヘルスケア推進室長
東北メディカル・メガバンク機構 災害精神医学分野 教授。災害科学国際研究所災害精神医学分野 教授。

■ 菅原 準一

地域支援石巻センター長
東北メディカル・メガバンク機構 母児医学分野 教授。

■ 布施 昇男

地域支援仙台センター長
東北メディカル・メガバンク機構 バイオマーカー探索分野 教授。

■ 菊谷 昌浩

地域支援岩沼センター長
東北メディカル・メガバンク機構 分子疫学分野 准教授。



History

2011

- 6月 内閣府 医療イノベーション室会議にて、東北大学より「東北メディカル・メガバンク計画」を提案、第9回東日本大震災復興構想会議にて、村井 嘉浩宮城県知事より「東北メディカル・メガバンク計画」を含む提言を提案
- 11月 平成23年度第3次補正予算が成立し、同計画が予算化

2012

- 2月 東北大学に東北メディカル・メガバンク機構が設置される
- 4月 文部科学省で東北メディカル・メガバンク計画検討会が発足、同5月までに5回の会議を重ね、同6月に提言が手交される
- 7月 文部科学省に東北メディカル・メガバンク計画推進本部が発足
- 9月 宮城県と東北大学との間で東北メディカル・メガバンク事業に関する協力協定締結(写真01)
- 10月 シンポジウム開催
- 11月 宮城県岩沼市・亘理町・山元町で地域子ども長期健康調査開始
- 12月 宮城県石巻市と気仙沼市に地域支援センター開所

2013

- 1月 岩手医科大学がいわて東北メディカル・メガバンク機構を設置
- 2月 宮城県岩沼市に地域支援センター開所
- 4月 シンポジウム開催(写真02)
- 5月 東北大学と岩手医科大学との連携協力協定締結、宮城県多賀城市に地域支援センター開所、地域住民コホート調査開始
- 7月 三代目コホート調査開始(写真03)、地域支援白石センターが開所、岩手医科大学が地域住民コホート調査(パイロット調査)を開始

- 8月 東北メディカル・メガバンク計画推進合同協議会を開催
- 9月 地域支援仙台センター南吉成分室が開所(写真04)
- 10月 地域支援石巻センター移転、地域支援気仙沼センターけんこうスクエアを開設、地域支援センターでのコホート調査開始
- 11月 地域支援大崎センターの開所、仙台市科学館に常設展示オープン(写真05、06)、地域支援白石センターけんこうスクエアを開設、東京でシンポジウム開催、1000人分の全ゲノム配列の高精度解読を完了について発表
- 12月 東北メディカル・メガバンク事業地域協議会設立準備大会を開催



Access & Map



■ 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
〒980-8573 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1
TEL: 022-717-8078 (代表)

- 【アクセス】
- ・仙台市営バス/JR仙台駅 西口バスプール発10、15、16番のりば「大学病院経由」または「交通局大学病院前」行き乗車、「大学病院前」下車。(約20分)
 - ・仙台市営地下鉄/泉中央方面行きに乗車「北四番丁駅」にて下車。(約5分)、北2出口より、山形方面へ徒歩15分。
 - ・タクシー/JR仙台駅 タクシープールより「東北大学医学部・星陵地区」で到着。(約10分)

■ 地域支援岩沼センター

〒989-2441 宮城県岩沼市館下1丁目58-1
TEL：0223-35-7037
【アクセス】
JR 東北本線・岩沼駅より徒歩 1分



■ 地域支援白石センター

〒989-0243 宮城県白石市字沢目8-29
TEL：0224-26-9771
【アクセス】
JR 東北本線・白石駅より徒歩 1分



■ 地域支援白石センターけんこうスクエア

〒989-0243 白石市字沢目15-6
TEL: 0224-26-9331
【アクセス】
JR 東北本線・白石駅前

■ 地域支援気仙沼センター

〒988-0045 宮城県気仙沼市田谷20-2
TEL：0226-25-9637
【アクセス】
・JR 気仙沼線不動の沢駅より徒歩 5分
・宮城交通・公立病院入口バス停より徒歩 3分



■ 地域支援気仙沼センターけんこうスクエア

〒988-0053 宮城県気仙沼市中前4丁目1-1 1F
TEL：0226-25-7691
【アクセス】
・JR 気仙沼駅よりタクシーで 10分
・宮城交通バス・幹活街西口バス停より徒歩 4分

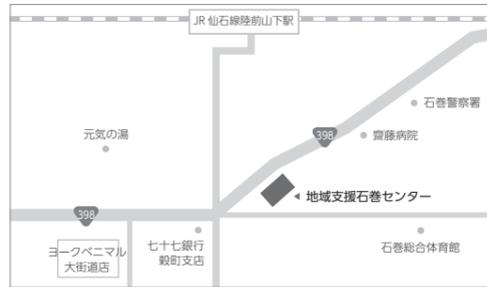
■ 地域支援仙台センター 南吉成分室

〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成6-6-5
TEL：022-341-3931
【アクセス】
JR 仙台駅西口バスプール 15 番より「大学病院・南吉成・中山台経由実況営業所」行き乗車「南吉成四丁目」下車
徒歩約 5分



■ 地域支援石巻センター

〒986-0873 宮城県石巻市山下町2丁目3-28
TEL：0225-98-5637
【アクセス】
・宮城交通バス・山下二丁目降車 徒歩 1分
・JR 仙石線・陸前山下駅下車 徒歩 12分



■ 地域支援大崎センター

〒989-6165 宮城県大崎市古川十日町3-28
TEL：0229-87-5982
【アクセス】
JR 東北新幹線・古川駅より徒歩 15分、タクシーで 5分、
宮城交通バス停七日町より徒歩 3分



■ 地域支援多賀城センター

〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目4-1
TEL：022-353-9331
【アクセス】
・JR 仙石線・多賀城駅より徒歩 13分（タクシーで 5分）

